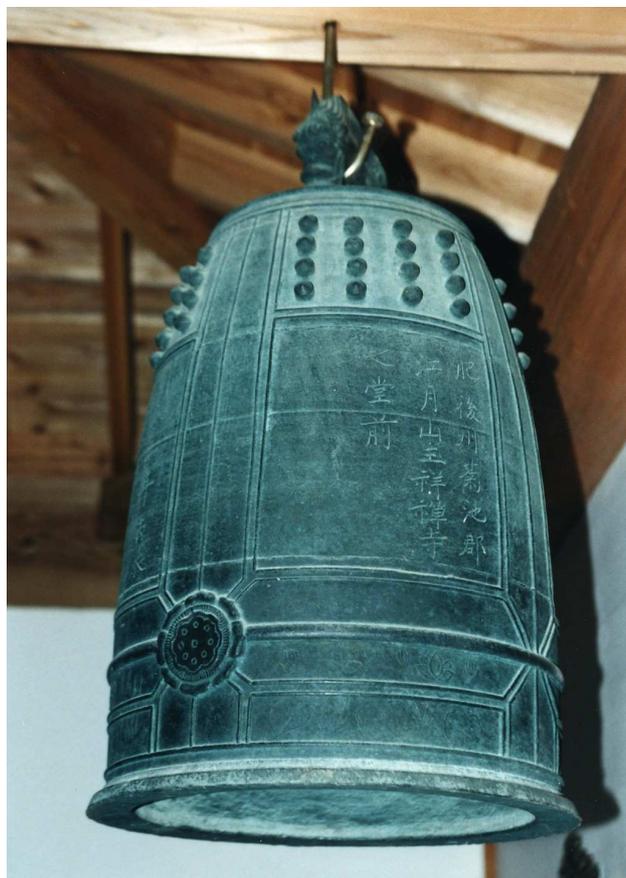


県指定重要文化財<工芸品>

ぎょくしょうじ ほんしょう 玉祥寺の梵鐘

指定日 昭和40年2月25日

所在地 菊池市玉祥寺 玉祥寺



江月山玉祥寺は、20代為邦が竺菴仲尖和尚を開山として迎え、享徳元年(1452)に菩提寺として建立したといわれる。この寺にある梵鐘は高さ68cm、口径38cmで、龍頭は高さ14cm、幅14cmで2頭の龍が鐘頭をかむ形をしている。高さ22cmの池の間に次の銘文がある。

「肥後州菊池郡 江月山玉祥禅寺 之堂前 明応五年丙辰閏二月日当住香淳再興 大工藤原冬次」と7行に印刻がある。(西暦1495年) 笠は高さ3cm、径23cmで円みを帯びてなだらかで、上帯は三線をめぐらすが文様はない。乳の間は4区あり、乳が4段・4列ある。中帯の下段と下帯とに連続した蓮華文がある。鎌倉期の梵鐘に見る力強さ、緊迫感には乏しいが、温和で好感な形は、肥後に残る室町梵鐘の中で注目される。

宝暦10年(1760)、境内より掘り出されたものと伝えられ、そこに銅の花瓶と古銭141枚もあったという。